れば、食堂もあります。

此の停車場は汽車や電車の發着がたえまがなく、毎日何萬といふ人が乗降りするので、入口や出口の前には、いつも自動車や人力車がたくさん居ます。

をはり

發車時間
降
動
力

昭和六年八月廿一日修正印刷
昭和六年八月廿五日修正發行
昭和六年八月廿五日翻刻印刷
昭和六年九月十五日翻刻發行

尋常小學國語讀本卷五
定價金九錢

著作兼發行者　文部省

著作權所有

翻刻發行兼印刷者　東京市小石川區久堅町百〇八番地24
日本書籍株式會社

代表者　大橋光吉

印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地
日本書籍株式會社工場

發行所　日本書籍株式會社

昭和六年九月一日
文部省檢査濟

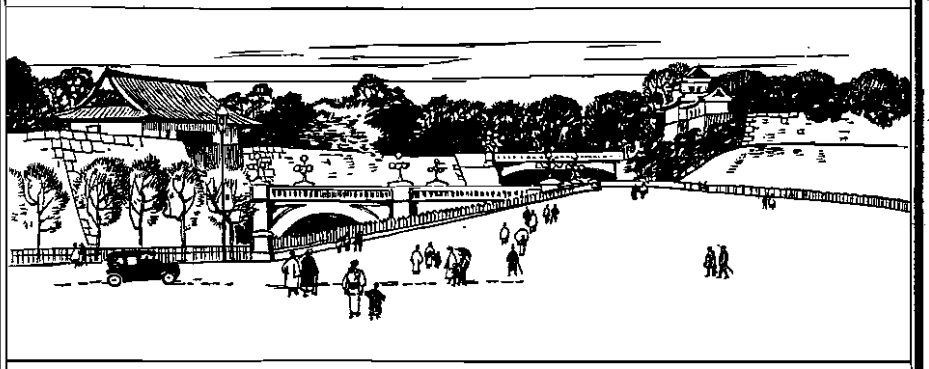
昭和12年3月1日寄贈
所名　板橋区立博物館
旧文旧開智学校

文旧開智学校資料

もくろく

一　大日本……一
二　中村君……二
三　大蛇たいぢ……七
四　松太郎の日記……十二
五　金鵄勲章……十七
六　鯉のぼり……二十
七　大賣出し……二十二
八　ツバメ……二十五
九　私のうち……二十七
十　遠足……三十四
十一　熊襲征伐……四十一
十二　一口話……四十五
十三　蠶……四十六
十四　雨……五十
十五　養老……五十二
十六　日本三景……五十六
十七　虹……六十
十八　峠から町へ……六十三
十九　用水池……六十八
二十　八幡太郎……七十九
二十一　水見舞……八十二
二十二　郵便函……八十九
二十三　一足々々……九十五
二十四　ブダウ……九十五
二十五　熊のさゝやき……九十七
二十六　東京停車場……百

陛下
民
九千
萬(万)



一　大日本

大日本、大日本、
神のみすゑの天皇陛下
われら國民九千萬を
わが子のやうに
　おぼしめされる。
大日本、大日本、
われら國民九千萬は

「日本一の事をくふうした。」

「何だ。」

「米をつくのに、上にもうすをきかさにつるしておけば、きねの上げ下しに米がつける。」

「上のうすには、どうして米を入れる。」

「それまではまだかんがへなかつた。」

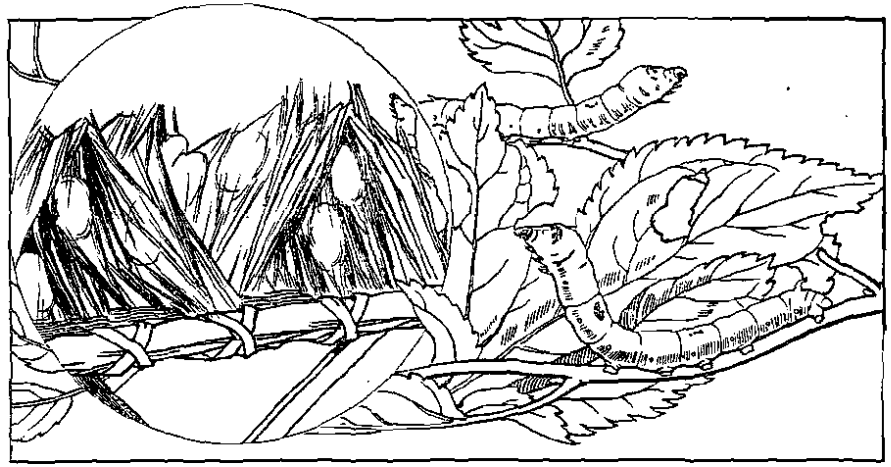
十三　蠶

昨日からうちの蠶が上りはじめました。上

頃　桑　棚

る頃には、蠶のからだがすき通るやうになります。もう桑の葉をたべないで、頭を上げて、繭(まゆ)をかける所をさがします。それをひろつて、まぶしへうつすのですが、少しでもおくれると、かごのうらや棚のすみなどで、繭をかけはじめますから、ちつともゆだんが出來ません。今日のお晝頃はうち中、目がまはるほどいそがしうございました。

動　吉紙　生



まぶしには、かさくといふ音がしてゐますが、これは蠶が動くからです。早いのはもう繭を作り上げてゐます。又うすい吉野紙のやうな作りかけの繭の中で、きゆうくつさうにからだをまげて、一生けんめい

所

にはたらいてゐるのもあります。まだ繭をかける場所をさがしてゐるのもあります。今桑をたべてゐる蠶も、明日の朝までには、たいてい上つてしまふさうです。さつきおかあさんが、

「民子、いよく今夜一ばんになつたよ。あれで八分通だ。」

と、ねえさんにおつしやいました。おかあさ

降

低

んもねえさんも、此の五六日は夜もろくろくおやすみにならないのです。

十四　雨

此ノ頃ハ雨ガ降リツヾイテ、表デ遊ブ日ガアリマセン。カウ毎日降ル雨ハドウナツテシマフノデセウ。

カラカサニ降ル雨ガ四方ヘ流レオチルヤウニ、水ハ低イ方ヘ低イ方ヘト流レテ行キ

絲(糸)

雨

支流

マス。庭ヘ降ル雨モ、庭ノ高イ所カラ、低イ方ヘ流レテ行キマス。ハジメハ絲スヂホドノ流デスガ、ソレガダン〳〵アツマツテ、ミゾニオチル頃ニハ、流モ早クナリ、水ノカサモ多クナリマス。

雨水ノ流レル道ハ地圖(チヅ)ニカイタ川ヲ見ルヤウデス。本流ガアリマス。支流ガアリマス。低クテ廣イ所ニタマルト、池ノヤウニナリ、

て歸る。

夕方京都へ立つ。

三月十九日　父から

千太どの

重文旨開智學校資料

をはり

昭和七年三月十六日修正印刷
昭和七年三月十九日修正發行
昭和七年三月十九日翻刻印刷
昭和七年四月十一日翻刻發行

著作權所有

著作兼發行者　文部省

尋常小學國語讀本卷六
定價金九錢

翻刻發行兼印刷者　東京市小石川區久堅町百〇八番地22　日本書籍株式會社
代表者　大橋光吉
印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地　日本書籍株式會社工場

昭和七年三月廿二日
文部省檢査濟

發行所　日本書籍株式會社

もくろく

第一　俵の山……一
第二　日本の高山……四
第三　ヤクワントテツビン……九
第四　きのこ取……十四
第五　海
一　しけ……十九
二　なぎ……二十
第六　くりから谷……二十二
第七　霜……二十六
第八　虎と蟻……二十七
第九　町ノ朝……三十一
第十　弓流し……三十四
第十一　入營した兄から……三十八
第十二　笑ひ話……四十三
第十三　鮭……四十五
第十四　冬の夜……四十八
第十五　萬じゆの姫……五十
第十六　磁石……六十四
第十七　けんやくと義捐……六十六
第十八　賀茂川……六十九
第十九　モスリン……七十四
第二十　氷すべり……七十七
第二十一　神風……七十九
第二十二　象……八十五
第二十三　千早城……九十
第二十四　記念の木……九十八
第二十五　茅……百
第二十六　伊勢參宮
一　入營中の兄へ……百三
二　父から……百四

去俵　飯

第一　俵の山

「今年はほんたうにほう年だ。今の分では去年より七八俵よけいに取れさうだ。」

「さうです。新田が大へんよく出來ました。來年もやはりあの稲を作りませう。」

朝飯の時こんな話が出ました。今日はうちの者がみんなたんぼへ稲こきに行きました。おるす居はおぢいさんと私だけです。

と思ひます。あのたちで子ども向の品をもう五十反、至急お送り下さい。代金は二口合はせて月末に送ります。

十月十三日　山口小三郎

高田定吉殿

をはり

至　末　殿

和41年3月1日書籍移管
住所
氏名　孜午予五博物館
重文旧開智学校

昭和六年十月五日修正印刷
昭和六年十月八日修正發行
昭和六年十月八日翻刻印刷
昭和六年十月廿五日翻刻發行

昭和六年十月十五日
文部省檢査濟

著作權所有

尋常小學國語讀本卷七
定價金九錢

著作兼發行者　文部省

翻刻發行兼印刷者　東京市小石川區久堅町百〇八番地23　日本書籍株式會社

代表者　大橋光吉

印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地　日本書籍株式會社工場

發行所　日本書籍株式會社

もくろく

第一　世界……一
第二　長き行列……四
第三　横濱……七
第四　潮干狩……九
第五　れんげさう……十六
第六　鎌倉攻……十八
第七　傘松……二十二
第八　馬……二十五
第九　大阪……二十八
第十　獅子と武士……三十
第十一　初夏の夜……三十四
第十二　大連だより……三十五
第十三　一太郎やあい……四十
第十四　川中島の戰
一　一騎打……四十三
二　中なほり……四十五
第十五　カヂ屋……四十九
第十六　航海の話……五十二
第十七　安倍川の義夫……六十一
第十八　木下藤吉郎……七十六
第十九　海ノ生物
一　動物……七十九
二　植物……八十四
第二十　マリーのきてん……八十八
第二十一　二百十日……九十二
第二十二　助力……九十五
第二十三　加藤清正……九十七
第二十四　彼岸……百八
第二十五　電報……百九
第二十六　注文……百十三

第一　世界

形球　われらが住む世界は、其の形まるくして、球の如し。ゆゑに之を地球といふ。

球表　地球の表面には、海と陸とありて、海の廣さはおよそ陸の二倍半なり。

太洲及部　海を分けて太平洋・大西洋・印度洋とし、陸を分けて、アジヤ洲・ヨーロッパ洲・アフリカ洲・南アメリカ洲・北アメリカ洲及び大洋洲とす。

我が大日本帝國はアジヤ洲の東部にあり。

がれるやうになつたのは、まことにいはれのあることである。

重文旧開習学校蔵

昭和42年2月27日購入
先受入　長野市若松町
山崎松十
重文旧開習学校

をはり

尋常小學國語讀本卷八
定價金九錢

昭和八年五月十七日修正印刷
昭和八年五月廿三日修正發行
昭和八年五月廿三日翻刻印刷
昭和八年六月十日翻刻發行

著作權所有

著作兼發行者　文部省

翻刻發行兼印刷者　東京市小石川區久堅町百〇八番地24　日本書籍株式會社

代表者　大橋光吉

印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地　日本書籍株式會社工場

昭和八年五月廿六日
文部省檢査濟

發行所　日本書籍株式會社

4年生用

もくろく

第一　山の秋……一
第二　犬ころ……三
第三　競馬……五
第四　武將の幼時
一　石合戰……十三
二　十四歳の時が二度あるか……十四
三　雀の子……十六
第五　揚子江……十九
第六　吳鳳……二十二
第七　心と心……二十六
第八　手の働……二十七
第九　炭燒……二十九
第十　朝鮮人蔘……三十二
第十一　大岡さばき
一　子ども爭……三十五
二　石地藏……三十八
第十二　手紙
一　小ぞうから主人へ……四十四
二　主人から小ぞうへ……四十六

第十三　鷲……四十七
第十四　餅つき……五十
第十五　町の辻……五十五
第十六　看板……五十八
第十七　塙保己一……六十二
第十八　アメリカだより
一　サンフランシスコから……六十四
二　シカゴから……六十九
三　ニューヨークから……七十
第十九　コロンブスの卵……七十五
第二十　稅……七十七
第二十一　水のカ……八十一
第二十二　啞の學校……八十三
第二十三　名古屋市……九十五
第二十四　廣瀨中佐……九十七
第二十五　胃とからだ……九十九
第二十六　分業……百三
第二十七　人を招く手紙……百七
第二十八　乃木大將の幼年時代……百十

櫻當

第一　山の秋

秋は山が美しい。此の間二三度降つた雨に、山の木の葉は目立つて色づいた。黃色なのはならやくぬぎで、赤いのはかへでや櫻やぬるでである。林の中へはいると、眞赤になつたつたが、松の木にからまつてをり、日當りのよい所には、つるうめもどきが美しい實をならべてゐる。

四十雀（から）・目白・ひよどり・もず・ひわ、秋の山は小鳥

箸結　塗畑耕

手なくば、我等は如何に不自由ならん。箸を持つことも出來ず、帶を結ぶことも出來ず、かゆき所をかくことも出來ず、いたき所をさすることも出來ざるべし。

大工の家を建て、左官の壁を塗り、船頭の舟をこぎ、農夫の田畑を耕すも、皆手の働なり。又筆一本にて美しき繪をゑがき、のみ一ちやうにて見事なるほり物をほりて、人を感ぜしむるも、手の働なり。

手はすべて仕事のもとにして、いそがしき時に、手の足らずといふは、働く人の少きをいふなり。

第九　炭燒

太郎は毎日炭を燒く煙を遠くに見てゐるが、まだ一度も其所へ行つて見たことがない。或日炭を燒く男が太郎のうちへ來て、ゐろりのはたでいろ〳〵の話をした。此の時太郎が、炭はどうして燒くのかときくと、其の男はてい

ねいに教へてくれた。

炭を燒くかまを造るには、はじめ石と土とでかまの腰だけをきづいて、天井は造らずにおく。腰といふのは、かまのまはりのことである。其の大きさは大ていさしわたし八九尺、高さ五尺ぐらゐで、前の方には、たて四尺四五寸、よこ一尺二三寸のかま口を造り、後の方には煙出の口を明ける。

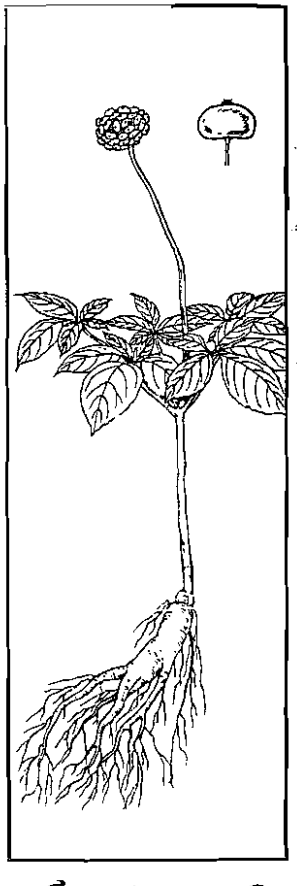
さて山の木をきり倒して、五尺ぐらゐの長さにきりそろへ、それをぎつしりとかまの中に立て並べる。それから其の上にそだを中高につみかさね、又其の上にねつた土を置いて打固めると、天井が出來る。次にかま口から火をつけて、四五日の間、中の木を燒く。さうして煙の色で燒け加減を見て、かまの外にかき出し、しめつた灰をかけてけすと、かた炭が出來上る。かまは一度造つておけば、其の後いく度も使へるのである。

草藥　貴重　朝鮮　栽培

炭にはかた炭の外に土がまといふものがある。これは土ばかりで造つたかまの中で燒き、火がきえてから取出したものである。

第十　朝鮮人蔘

山野に生ずる草木の中には、藥用にするものが多くありますが、其の中貴重なものの一つは朝鮮人蔘（にんじん）です。これはもと野生のものでしたが、今から千何百年も前から栽培することになつたのだとつたへてゐます。さうして其の栽培については次のやうな話もあります。



婦　告

昔朝鮮に一人の婦人があつて、子どもをおさづけ下さるやうに、朝晩神様にいのつてゐました。すると或夜ゆめの中に、明日何山の何所へ行けば、望のものをさづけてやるといふ神様のお告がありました。婦人は大いに喜んで、

をつゞけたれば、弟子どもは

「先生、少しお待ち下さいませ。今風であかりがきえました。」

と言ひしに、保己一は笑ひて、

「さて〳〵、目あきといふものは不自由なものだ。」

と言ひたりとぞ。

第十八　アメリカだより

一　サンフランシスコから

ハワイから出した繪葉書は見ましたらうね。おとうさんは一昨日の正午無事にサンフランシスコへ着きました。横濱を出てから、ちやうど十五日目です。

サンフランシスコには、日本人がたくさんゐて、いろ〳〵な商賣をしてゐます。おとうさんが着いた日は、ちやうど五月のお節供（せつく）の日で、日本人

治

の家には、鯉のぼりが立つてゐました。

此所には、明治三十九年に大地震があつて、町は大方こはれたのですが、十五六年の間にすつかりとりかへして、今では前よりもりつぱになつてゐます。アメリカ人の元氣なことは、これだけ聞いてもわかりませう。」

サンフランシスコはカリフォルニヤ

肥富有

州にあるのですが、此の州は合衆國の中でも、氣候がよくて、其の上地味が肥えてゐますから、いろいろな農産物に富んでゐます。ことに野菜や果物が有名です。日本人は八

英語
勉

萬人餘も居て、子どもは、アメリカ人の立てた學校へ行つて、英語で勉強しますが、歸つて來ると、又日本人の立てた學校へ行つて、日本語で學問をしてゐます。つまりお前たちよりもよけいに勉強してゐるわけです。お前たちもせい〳〵勉強なさい。

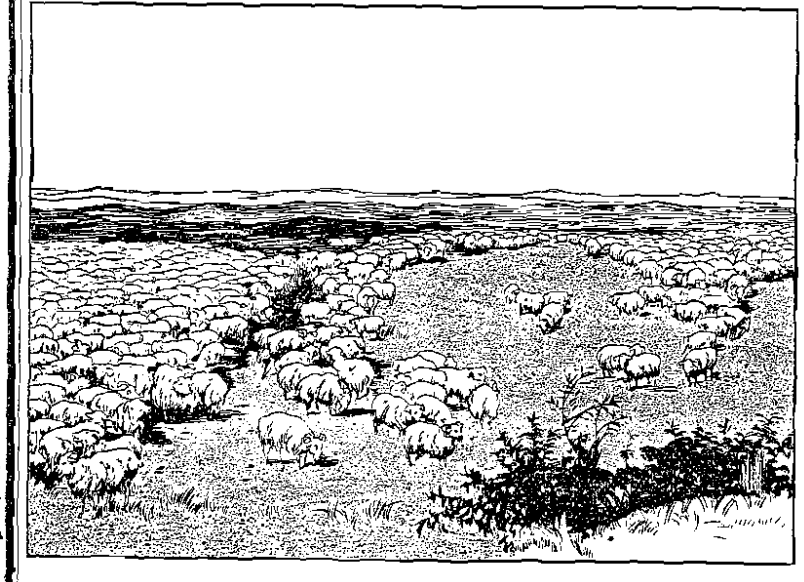
五月七日　父から

太郎どの

さち子どの

二　シカゴから

サンフランシスコから三日二晩汽車に乗通して、今日此のシカゴに着きました。此所



園　健康　害　牧　滞　米

は工業地で、煙突の煙で空は眞黒だが、大きな公園が幾つもあるから、健康には害がなささうです。此の繪葉書は此所へ來る途中、汽車の窓から見た牧場の實景です。

九月五日

三　ニューヨークから

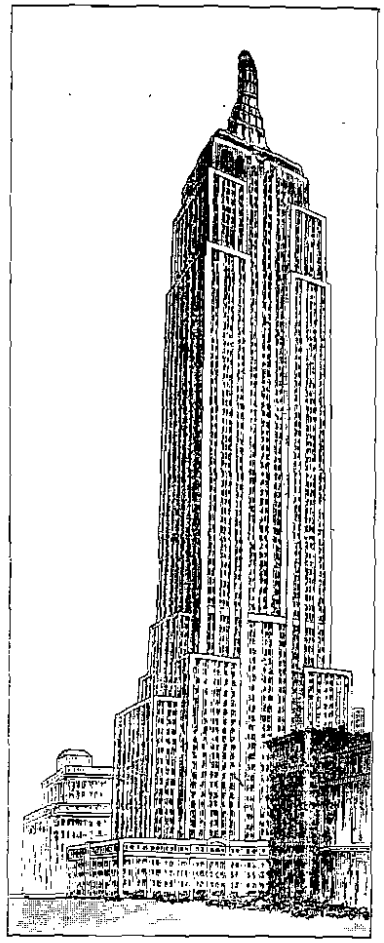
長く滞在してゐたシカゴ市を立つて、今日いよ〳〵米國第一の大都會

哩

ニューヨーク市に着きました。シカゴとニューヨークの間は九百八十哩もありますが、おとうさんは最大急行の列車に乗つて、たつた十八時間で着きました。日本にはまだこんな早い汽車はありません。ニューヨークは人口からいへば、ロンドンに次ぐ大都會で、七百萬以上もあるといひます。高い建物のあるこ

とは世界第一で、十階・二十階の家はいくらもあります。中で高いのは百階以上もあります。

地上の鐵道には勿論、高架鐵道にも、地下鐵道にも、電車や汽車が終日終



勿論

終

夜、休なしに運轉してゐます。アメリカ人は大きいこと、廣いこと、高いこと、早いこと、何でも世界一になるやうに心掛けてゐるといひますが、何しろ大した勢です。

此所は有名な商業地ですが、りつぱな學校もありますし、博物館や圖書館などもたくさんあります。

シカゴを立つ日に、お前たちの年始

始

狀

狀が着きました。二人とも字が上手になつたのに驚きました。うちには何事もないさうで安心しました。其のうちに繪葉書や寫眞帖を送りますから、ゆつくりごらん。おかあさんによろしく。

一月十八日　父から

太郎どの

さち子どの

非常

祝賀席

第十九　コロンブスの卵

コロンブスがアメリカを發見して歸つた時、イスパニヤ人の喜んだことは非常なものでした。

一日祝賀會の席上で、人々がかはるゞ立つて、コロンブスの成功を祝しますと、一人の男が

「大洋を西へ〳〵と航海して、陸地に出あつたのが、それ程の手がらだらうか。」